



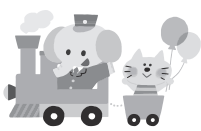
京都 YWCA

11 2021

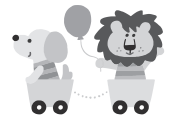


古都に咲いて100年

京都 YWCA 親子ライブラリー 20 周年記念イベント



「tupera tupera 絵本ライブ」を終えて ～おはなしの世界を通じて心豊かな場をつくりたい～



2001 年立ち上げの京都 YWCA 親子ライブラリーは 20 歳になりました。このライブラリーは「国籍、言語、文化、宗教、障がいの有無などの違いをこえて、それぞれが育ち合うこと」を大切にしています。対話の結果生まれたこの活動理念は、京都 YWCA という土壌に根を張り、活動を支え続けてくれています。

絵本と心豊かな場は生活の中に

2020 年私たちは経験したことがないパンデミックに見舞われました。外での「密」を避けるため、「家」に閉じ込められる閉塞感の中で、「絵本」は力を発揮します。語りと画で子どもたちは想像力の翼を手に入れ、外出できなくてもおはなしの世界を自在に飛び回り、その世界の住人と出会うことができるのです。親もまた子どもと絵本の世界で楽しみや喜びを一緒に見つけることができます。「絵本を通じて心豊かな場をつくる」ことを目標とする親子ライブラリーの願いは、生活の中に息づいていることに気が付きました。

tupera tupera との出会い

2019 年美術館「えき」Kyoto で『ぼくと わたしと みんなの tupera tupera 絵本の世界展』が開催されました。tupera tupera という呪文のような言葉は、京都在住のアーティスト、亀山達矢さんと中川敦子さんのユニット名です。親子ライブラリーの読み語り活動でも『しろくまのパンツ』、『パンダ銭湯』など tupera tupera の絵本は大人気です。展覧会では、あっと驚く発想、手仕事で創られる色鮮やかな世界を堪能できただけでなく、ご夫婦でもあるお二人が子育てや生活の中に創作の種を見つけて楽しまれていること、読者も含めた第三者の存在を常に意識しコミュニケーションを大切に活動されていることを知りました。そして、お二人をお招きして 20 周

年を祝いたい！という気持ちがムクムクと湧いてきました。

サイコー！！の一日を振り返って

半年以上かけ、準備のための^{かんかんがく}侃々諤々のやりとりがあり、コロナ禍という手ごわい相手に頭を抱える課題にも直面しましたが、知恵を出し合い粘り強く調整を続けました。京都 YWCA あじさい保育園の協力も得て 10 月 7 日～16 日まで「うらかふえ」で行った「かおてん」を経て、10 月 17 日本番！この日のために作った T シャツに身を包んだスタッフは、100 人を超えるお客様を迎えました。

亀山さんの本気すぎる「おばけ」がコワくて泣きだす子、爽やかな風にくすぐられるような中川さんの語りに起こる笑い、絵本制作秘話にはおとなも思わずフムフムと唸ります。tupera tupera の絵本を通じて舞台と客席の反応が行き交う、みんなで創る「絵本ライブ」となりました。親子ライブラリーは『いろいろバス』、『しろくまのパンツ』、『パンダ銭湯』でコラボレーションさせていただくというビッグプレゼントをいただきました。

tupera tupera のお二人はもちろんのこと、過去に活動を支えてくださった懐かしい方々、「絵本ライブ」を応援くださった方々、足を運んでくださったお客様、京都 YWCA の仲間、全ての人たちと「心豊かな場」が創られたことに感謝申し上げます。
(京都 YWCA 親子ライブラリー)



懐かしい方々から届いた便りに励まされました



亀山さんの鬼気迫る「おばけだじょ！」に泣く子ども



tupera tupera のお二人と 20 周年記念 T シャツのスタッフ

京都 YWCA・APT (外国人支援) 30 周年を迎えて

京都 YWCA では、日本に出稼ぎにきて窮地にいたフィリピン人女性を助けたことをきっかけに、アジア女性の人権の問題を考えようと 1987 年に AWT (Asian Women Together) というグループができました。AWT は学習会を中心として活動していましたが、その後、日本に働きに来る外国人男性が増えたため、女性だけではなく外国人全般を対象とした支援活動を開始することを決めました。当初は「電話相談」としてではなく電話情報サービスを提供することにして APT (Asian People Together) を立ち上げました。それが 1991 年のことです。立ち上げに際して幹部委員会 (現運営委員会) では、起こりうる危険性や、ボランティアが中心となった電話相談の責任などについて検討されました。結局、メンバーたちの熱意を理解し、応援することを決め、立ち上げることができました。

最初の頃は、興行ビザで来日する人が多く、そこから生じる相談が多くありました。雇用主との間でトラブルになって罪を犯してしまった人への裁判支援などもありました。最も多かった相談は、日本人男性と結婚をしたいがどうしたらいいかというものでした。時間が経つとともに相談内容も結婚の相談から離婚や DV、子どもの親権に関するもの、子どもの国籍取得などへと変わっていきました。

相談活動をしながら年に一度は合宿をし、1 年を振り返り、これからの 1 年にすべきことなどを話し合いました。

昼間は議論し、夜はお酒を飲みつつ語り合ったものです。また、活動資金集めのためにコンサートを開催したり、タイカレーを作って売ったりもしました。こうしたことを通じて APT のメンバー同士の絆も深まっていきました。

合宿で話し合われたことから二つのプログラムが 1998 年に立ち上がりました。一つ目は、外国人への偏見やステレオタイプな見方を日本社会から無くすために、学校を通じて子どもと先生方を対象に多文化共生の大切さを伝える「教材開発研究会 (後の多文化共生プログラム)」、もう一つは、最も犠牲になっている子どもたちのための「子どもプログラム (後の親子プログラム)」でした。どちらも形は変えつつも 20 年近く続いたプログラムで、そこには大学生や、APT にかつて相談をした当事者だった人たちも多く関わりました。

まだまだ課題はあるものの、以前と比べると行政も社会も、多文化共生の重要性を理解し、外国籍の人を受け入れ、支援する体制ができつつあると思います。しかし、APT を頼ってくる人はその支援から漏れてしまっている人、手助けを必要とする人が多いのです。これからも APT は、常に寄り添い、傾聴し、問題解決のための伴走者でいることで、存在意義を保ち続けたいと思っています。

(安藤いづみ)



2003 年合宿。夜更けまで語り合う



2003 年子どもプログラムキャンプ



(2000 年頃) 出張授業



2004 年チャリティコンサート



(2005 年頃) 東九条マダンにて

シリーズ「わたしとYWCA」

職員からボランティアへ——多くの人々に支えられた、豊かな出会いの日々

京都 YWCA40 周年記念誌『古都に咲いて四十年』に照らすと末尾に近い昭和 38 年（1963 年）、新任幹事補として就職したのが YWCA との関わりの始まりでした。

その前年の秋、大学学生課の掲示板に「YWCA 職員募集」の文字を見つけ、「どんな仕事をするのでしょうか？」と質問すると、「あなた、人が好きですか？」と問い返されました。あまり人づき合いが得意でない私としては即答できずその場を引き下がったのですが、同じ教会員であった当時京都 YWCA の主任幹事と幹部委員の方に勧められ、職員になりました。

主に教育部（料理、英会話、中高生の英数教室その他のクラス運営）を担当する予定でした。そのことに収まらず機関紙の編集、バザー食堂担当と、新人の手に余る雑多な仕事にウロウロしながらも何とか続けられたのは、多くの人たちの支えがあったからこそです。委員会のメンバー、幹部委員、クラスの先生方、他市 YWCA や日本 YWCA の方たち。多才で魅力的な多くの人に出会えました。

新幹事研修は軽井沢のカフマン・ハウスで、キャンプリードートレーニングは野尻湖畔のキャンプサイトで、レクレーションリーダー講習は東京 YWCA の国領憩いの家へと、贅沢な経験もさせていただきました。

日本 YWCA の定期総会でだったか、幹事研修会でだっ

たか、当時日本 YWCA 会長だった関屋綾子さんが強調点の一つとして話された「核否定の思想に立つ」は、関屋さんの凛としたたたずまいとともに、私の心に深く刻まれるものでした。

育児のため、退職後は会員として委員会に参加したり、パートタイムのスタッフとして関わったりした時期もありました。40 代後半から 60 歳まで一般の製造業に勤務し、その間

のみ YWCA との関わりは薄くなりましたが、定年退職後はバザーやスリフトショップのカフェのケーキ作りのグループに誘っていただいたり、事務所受付のアルバイトをさせていただいたり、YWCA にどっぷりはまっていきました。

YWCA は本当に楽しい素晴らしい人の集まりですね。

（吉田紀子）



京都 YWCA の職員たち
（以前の建物の前で）



シリーズ——京都 YWCA100 年の歩み (5) 社会の問題に向き合って

滞日外国人支援とエイズ啓発プログラムの開始

1980 年代、日本との経済格差が大きい国々からの出稼ぎ女性が増え、風俗での労働、売春強要、オーバーステイなど様々な人権問題が起きていた。フィリピン人女性から相談が舞い込んだことをきっかけに、この問題について講演会や学習会を重ねていた会員たちが、87 年 AWT（Asian Women Together）を結成した。組織としての救済対応の必要性が強く感じられたことから、法律の勉強会や諸々の検討・準備を経て、名称も APT（Asian People Together）と改め、1991 年 9 月 9 日より情報提供を原則とする週 2 回の電話相談サービスを開始した。

90 年代前半は、国際結婚や医療の問題に特化した 1 日電話相談を、他団体との協力のもと何度も開催した。背景には、入管法改正に伴い一気に南米日系人労働者が増加していたことがあった。また、子どもの買春・ポルノ・人身売買にも関心を持ち、『アジアの子どもと買春』（翻訳本）と『アジアの子どもとセックスツーリスト』（いずれも明石書店刊）を出版し、それらを禁じる法律の制定に向け、全国的組織の一員として国会議員への働きかけも行った。

1996 年に、日本人の子どもを養育する外国人女性に定住者の在留資格が認められるようになり、離婚した外国人女性が一人で育てている子どもたちの境遇に関心が向うよ

うになった。さらに、日本人社会への働きかけとして、教育現場での多文化共生の教材開発や実践を模索する動きもこの頃始まっている。

エイズ啓発プログラム

もう一つの新たな動きとして、1992 年カナダ留学から帰国した一人の会員の強い推進力により、女性の立場でエイズ問題に取り組む「女性とエイズプロジェクト・PAN（Positive Action Now）」が発足、京都 YWCA 内外の、男性も含めた多くの若者たちが参加した。当初、学習や啓発活動を行っていたが、具体的なサポートを目指すようになり、専門性のある職員の雇用を得て、1994 年正式名称を「若者・女性と HIV/AIDS プロジェクト（通称 PAN）」とした。95 年には関西で初の女性を対象とした電話相談を開始し、また感染者・患者に栄養バランスの取れた食事を提供する配食サービスを月 2 回行うようになった。

（神門佐千子）



「京都 YWCA100 周年記念募金」 へのご協力をお願い



京都 YWCA は 2023 年に 100 周年を迎えます。女性の社会的立場が弱かった戦前から、キリスト教を基盤にして女性を支援する事業・活動を推進してまいりました。現在、年齢や文化的背景の異なる人々が出会い、協働する「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」事業を推進しています。

この歩みをさらに前進させるために、100 周年記念募金を実施いたします。

ご寄付は以下の目的に充てられます。皆さまのご支援をお願い申し上げます。

●担い手育成・次世代育成のために

社会貢献活動を支えていく人材、未来を担う人材を育成します。

●保育環境の向上のために

2020 年 4 月に開園した京都 YWCA あじさい保育園の保育環境を向上させていただきます。

●W・M・ヴォーリズ設計「サマリア館」の補修のために

1936 年に建設された歴史的価値をもつ木造建物サマリア館を次世代に引き渡していきます。

●歴史を未来に引き継いでいくために

記録資料のアーカイブ化、100 周年記念誌の製作などを行います。

目標額：1,000 万円

募集期間：2021 年 4 月～2024 年 3 月

募金額：個人 1 口 3,000 円

団体・企業 1 口 10,000 円



郵便振替 01080-9-1566

加入者名 公益財団法人京都 YWCA

その他の京都 YWCA へのご寄付の詳細は事務所に問い合わせただくか、ホームページをご覧ください。

<http://kyoto.ywca.or.jp/support>

今後のプログラム

◎京都 YWCA クリスマスコンサート ～ギター・キーボードの音色とうたごえと…～ 末松よしみつさん・西谷玲子さんとともに

今年のクリスマス集会は、京都 YWCA の会員だけでなく、それ以外の方々も一緒に楽しめるクリスマスコンサートです。2023 年に 100 周年となる京都 YWCA のイベントでもあります。ギターの末松よしみつさん、キーボードの西谷玲子さんとともに、教会で、楽しく心温まるひとときを過ごしましょう！

日時：2021 年 12 月 4 日（土）開演 14:00（開場 13:30）

場所：日本聖公会 聖アグネス教会（烏丸通下立売角）

参加費：一般 1500 円、中高生・障がい者 1000 円、小学生以下 無料

定員：70 名 チケット販売中

ご協力ありがとうございました

2021 年 8 月 1 日から 9 月 30 日 寄付者一覧（敬称略、順不同）

一般寄付

日本キリスト教団洛南教会

各指定寄付

* 100 周年募金

久保美恵子、鶴崎祥子、吉田紀子、有田孝子、小杉總子、高幣喜文、平野晴美、神岡茂子、高幣真公、北垣景子、上内鏡子、斎藤豊子、大山悠子、神門佐千子、一色光世、山本千鶴、匿名、（一財）函館 YWCA、（社）西陣会、京都市民福祉センター

* 親・子育て支援委員会

有田孝子、京都家庭文庫地域文庫連絡会、匿名

* 居場所委員会

宮武美知子

* 多文化共生委員会

有田孝子、田中君枝、弘中奈都子、一色光世、広がれボランティアの輪

* APT

北垣由民子、高山亨、北村保子、中村美智子、神門佐千子、安藤いづみ、築瀬仁志、ヌーヴェル愛徳修道会地区本部、匿名

* ファンドレイジング委員会

弘中奈都子

* 自立援助ホーム「カルーナ」

鶴崎祥子、伊東真一郎、小杉總子、中野かおり、小林裕彦、舟木加代、亀田和代、大槻裕樹、有田佳子、岩崎明生、吉田紀子、定本ゆきこ、今野玲子、近藤八津子、田中潤子、御前隆、神門佐千子、坪野えり子、奥村孝、竹岡哲朗、林衛、中野加奈子、船越克真、辻川さとみ、匿名、（社）西陣会、日本聖公会京都教区婦人会

* ユース委員会

大久保直樹

* 賛助費

上内鏡子、奥村孝、岡岡男、匿名

サービス付き高齢者向け住宅

「京都 YWCA サラーム」入居者募集中

60 歳以上の女性を対象に入居者を募集しています。

詳細は事務所（075-431-0351）までお問い合わせください。

9・10月／理事会報告

- 京都府若者等就職支援推進事業として本年度も「ふれあいの居場所うららかふえ」を中心にさまざまな作業で若者就労支援を実施している。
- 100 周年記念関係：記念式典日（2023 年 9 月 23 日）と会場を決定した。記念イベント（記念旅行、記念講演会等）、記念誌制作、記念グッズの制作準備を進めている。
- 10/23：100 周年記念実行委員会主催で、第 2 回京都 YWCA の歴史を振り返るシリーズプログラムを開催。今回は 75 周年誌『希求』（1974-1997 年）の時代を中心に実施。
- ユース委員会と自立援助ホーム「カルーナ」のコラボレーション

事業として世界 YWCA 発行冊子『My Body My Mind』をテーマに 3 回シリーズで勉強会実施。

- ミッション推進会員活動運営委員会での運営委員研修の今後の予定を確認。
- ボランティア募集のための説明資料（京都 YWCA の歴史、世界 YWCA との繋がり、各活動・委員会等の説明）の最終版へ向けて協議した。
- 「京都 YWCA あじさい保育園」の専用サイトをインターネットにアップした。<https://kyotoywca-ajisai.com>

K Y O T O Y W C A No.565 2021 年 11 月号（11月1日発行）

発行人：上村愈巳子

発行所：公益財団法人京都 YWCA

〒602-8019

京都市上京区室町通水上ル近衛町44

電話：(075) 431-0351

FAX：(075) 431-0352

e-mail：office@kyoto.ywca.or.jp

H P：http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替：01080-9-1566

口座名義：（公財）京都 YWCA

定価：1 部 50 円

発行：奇数月 1 日発行